

市電 501 型 528 号車輛 1 輛

市電 501 型 528 号車輛

しでん 501 がた 528 ごうしゃりょう

分野／部門

有形文化財／歴史資料

所有者

大阪市高速電気軌道株式会社

所在地

大阪市住之江区緑木 1

紹介



大阪では明治時代の市内交通の主力は人力車であったが、明治 20 年代から民間で市街電車敷設の動きが起こった。大阪市では、市街電車公営化の考えにもとづいて、明治 36 年(1903)9 月 12 日、花園橋－築港棧橋間の営業運転を開始した。営業的にも 2 年目以降は利益が計上されるようになり、第 2 期線の東西線(九条中通－末吉橋間)と南北線(梅田－恵美須町間)が一部を除き明治 41 年(1908)8 月 1 日に開通。以後も、市営主義を貫きながら敷設を進めていった。

501 型は大阪市電で最初に採用されたボギー車で、明治 44 年(1911)6 月から大正 2 年(1913)7 月にかけて 100 輛製造された。戦災を受ける直前には 40 輛が残存していたが、戦災で 8 輛が焼失した。現存する車輛 528 号は、明治 44 年 6 月天野工場で製造された。昭和 26 年(1951)に廃車されたが、43 年(1968)当初の形に復元され保存されたものである。

全長 10,668mm、車幅 2,286mm、高さ 3,385mm、自重 12.70t。定員は 62 名。台車はブリル 22E 型で、大小 2 対の車輪からなるマキシムトラクション台車である。主電動機は GE 製 35 馬力 2 台で、制御器には当時の市街電車としては先進的なエアブレーキを装備している。屋根は段落ち屋根で、側面には腰細サイドパネルを付ける。この型式では、運転台に窓を設けたが、出入口扉はない。この点は後に改造され、出入口折戸が取り付けられている。

参考文献

大阪市交通局編『大阪市交通局五十年史』(大阪市交通局 1953)

大阪市交通局編『大阪市交通局七十五年史』(大阪市交通局 1980)

大阪市電編集委員会編『大阪市電－路面電車 66 年の記録』(鉄道史資料保存会 1980)